

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会幼児教育ワーキンググループ（第7回）  
及びこども家庭審議会幼児期までのこどもの育ち部会保育専門委員会（第8回）  
議事次第

1. 日時 令和8年4月9日（木）15：30～18：00

2. 場所 文部科学省東館5F6会議室

※ウェブ会議と対面による会議を組み合わせた方式

3. 議題

（1）乳幼児理解に基づく評価の充実について

（2）家庭・地域との連携・支援の充実について

4. 配付資料

資料1 乳幼児理解に基づく評価の充実について

資料2 家庭・地域との連携・支援の充実について

# 家庭・地域との連携・支援の充実について



## 1. 乳幼児を取り巻く現状や課題

- 現在の社会状況においては、乳幼児の発達に必要な、様々な人やものと直接的・具体的に関わる体験を十分に確保することが困難になっている。特に、自然と触れ合ったり、地域で異年齢の友達と遊んだり、働く人や高齢者など幅広い世代と交流したりするなどの直接的・具体的な体験が不足しているとの指摘がある。
- インターネット利用の低年齢化や長時間化に伴う乳幼児の生活や心身への影響の懸念が高まるとともに、保護者においても、乳幼児にデジタルデバイスを使わせることの是非を含め、SNS等から得る子育て情報に振り回されたりするなど、子育てに不安を抱く保護者が増えているとの指摘がある。

## 2. 家庭との連携・支援に関する現状や課題

- 一部の幼児教育施設※1においては、SNS等からの偏った情報に影響を受けた一部の保護者のニーズを優先するなどし、幼児教育※2の基本から見て必ずしも適切とは言えない活動が行われることが危惧されているとともに、保護者においても、幼児教育施設に対し、長時間預かることを求めたり、幼児への教育について過度に期待しすぎたりする傾向も見られる。

※1 幼児教育施設：幼稚園、保育所、認定こども園

※2 幼児教育：0歳～小学校就学前までの幼児教育施設における教育

- 乳幼児の健やかな成長のために、幼児教育施設と家庭が連携することが必要不可欠であるが、幼児教育の基本的な考え方や当該園の目標や方針等について、保護者に十分共有されていない場合があるのではないかとの指摘がある。
- 障害のある乳幼児の保護者、外国人の乳幼児や海外から帰国した乳幼児等の保護者など、個別に支援が必要な家庭もある。こうした家庭に対しては、複合的な困難を抱えている可能性にも留意しつつ、早期に状況を把握するとともに、園内及び自治体や地域の関係機関との連携を図ることが重要である。

## 3. 地域との連携・支援に関する現状や課題

- 少子化、核家族化、過疎化、地域の繋がりの希薄化等を背景に、子育て中の保護者においては、情報提供や相談、助言を含め、子育てへの支援が強く求められている。
- また、幼児教育施設に在園していない乳幼児のいる家庭のうち、特に、0～2歳児のいる家庭を対象とした支援の必要性が高まっている。こうした現状に鑑み、全ての乳幼児に対し、家庭と異なる環境で多様な人と関わる機会を提供するとともに、保護者の孤立感や不安感の解消、育児負担の軽減等を各家庭の状況に応じて切れ目なく支援するため、「こども誰でも通園制度」が制度化され、令和8年度より、子ども・子育て支援法に基づく新たな給付として全国で実施されているところ。
- また、各幼児教育施設における子育ての支援の取組状況については、地域の実情や幼児教育施設の規模等により、様々である。



# 家庭との連携・支援の充実に向けた方向性（案）

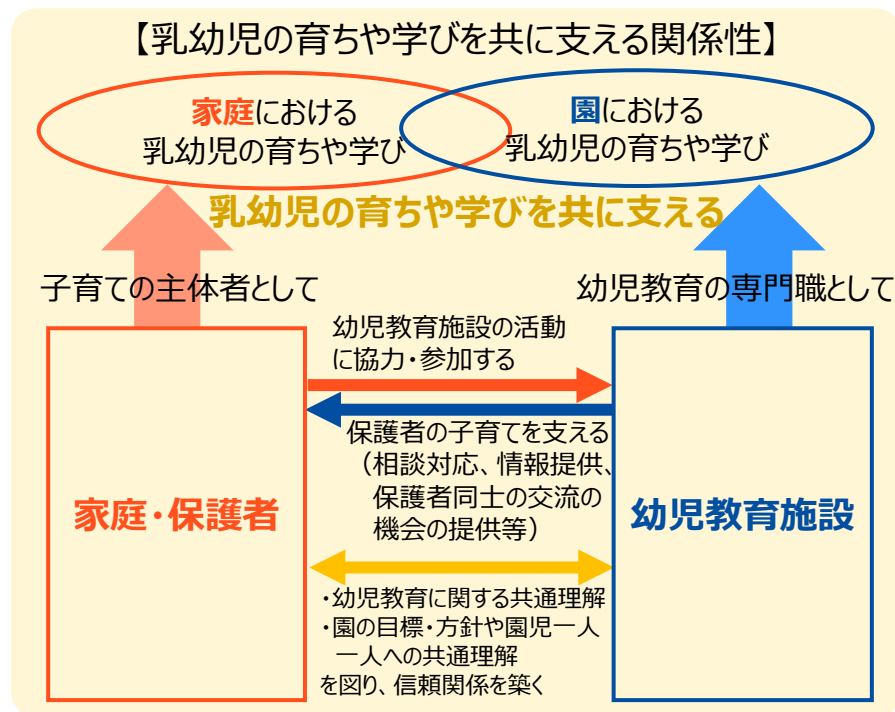
- 乳幼児の健やかな成長のためには、幼児教育施設と家庭や地域がそれぞれの有する機能や役割を互いに発揮し、支え合いながら、一体となって取り組むことが必要である。
- 家庭との連携・支援に当たっては、保護者が我が子の姿を肯定的に捉え、その成長や可能性に気付き、子育てを楽しみ、ひいては保護者自身のウェルビーイングにもつながるといった観点を大切にすべきではないか。
- また、幼児期までのこどもの育ち（例：「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）」等 **参考資料①**）や幼児教育の基本的な考え方（例：「幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ」等 **参考資料②**）について、保護者をはじめ社会一般に十分理解されるよう、一層の普及・啓発を行っていくことが重要ではないか。

## 1. 家庭との連携・支援

- 子育ての主体者である保護者と幼児教育の専門性を有する幼児教育施設とが、それぞれの立場から乳幼児の育ちや学びを共に支えることが重要である。幼児教育施設においては、そうした家庭との連携について一層の充実を図るとともに、国においても、その重要性を、幼児教育施設はもちろん、保護者にも十分理解されるよう周知するべきではないか。
- 具体的には、幼児教育施設においては、日常的なやり取りや計画・記録等の掲示・配布を通じて、幼児教育の基本的な考え方や当該園の目標や方針等について共通理解を図るとともに、保護者の子育てを支える取組の充実を図ることが重要ではないか。

### （取組例）

- ・保護者の不安に寄り添い、相談に応じる
  - ・子育てに関する情報の提供、乳幼児期にふさわしい生活や学び、ICTとの付き合い方などの周知・啓発
  - ・保護者同士が交流する機会を提供し、悩みや経験の共有や仲間づくりを促す など
- ※在園児の保護者に対して取り組むとともに、園庭・園舎の開放や未就園児の親子登園、「こども誰でも通園制度」により来園した保護者等に対して取り組むことも重要。



## 2. 特別な配慮を必要とする乳幼児の保護者等への個別支援

- 特に、障害のある乳幼児、外国人の乳幼児や海外から帰国した乳幼児等の保護者など、より個別的な支援が必要な場合には、園長のリーダーシップの下、専門職の配置等も含め、園内体制を整備し組織的に対応するとともに、自治体の関係部局や関係機関等による専門的な支援に繋ぐことが重要ではないか。

### （専門的な支援の例）

- ・児童発達支援センター等による相談支援
- ・多言語支援センター等による制度案内、手続き等のサポート、翻訳支援員の派遣 など



## 3. 地域との連携・支援

### （1）地域の保護者の子育てを支援する取組の充実

- 幼児教育施設においては、地域全体で多様な支援ニーズを受け止める体制の一端を担うため、こども家庭センター等の関係機関との連携・協働を図りつつ、地域での保護者の子育てを支援する取組を積極的に行っていくべきではないか。
- その際、地域の実情に応じて、市町村が、幼児教育施設やその他の施設等の規模や有する機能等を考慮した上で、各施設等の役割分担を明確にすることが重要ではないか。 参考資料③

### （2）地域の人的・物的資源の活用

- 幼児教育施設においては、乳幼児の体験が一層豊かなものになるよう、地域と連携し、地域にある人的・物的な資源を積極的に活用していくことが重要ではないか。その際、乳幼児の興味・関心や必要感に基づいた活用、そこでの体験がその後の遊びの充実につながるような工夫が大切ではないか。
- また、こうした連携は、地域社会と信頼関係を築き、幼児教育への理解を醸成することにもつながる観点からも重要ではないか。

### （3）地域の幼児教育施設としての機能や施設の提供

- 幼児教育施設に在園しているか否かに関わらず、様々な家庭の乳幼児等が幼児教育の環境に関わることができるようにすることが重要である。特に幼児教育施設は、保護者にとって安全・安心に利用できる場でもある。このため、園庭・園舎の開放、未就園児の親子登園、公開講座の開催、「こども誰でも通園制度」を活用した取組等において、保護者の子育てを支援するとともに、地域の乳幼児等に対して、幼児教育の特性を生かした活動を提供する取組の充実を図るべきではないか。

#### （地域との連携の取組（例））

- 散歩中に見た麦畑に興味をもった幼児たちが、園に戻ってから調べると、麦から味噌が作られることが分かった。そこで、麦畑の御主人に手伝ってもらいながら味噌作りに挑戦した。作った味噌を使って、日ごろから交流のある高齢者施設の皆さんや麦畑の御主人を招待し、一緒にお味噌汁会をした。
- 地域伝統の七夕祭りでは、商店街の各店が七夕装飾の張り子を作って飾る。園でも七夕飾りを作って保育室に飾っていたが、商店街の店主たちに飾りの作り方を教えてもらいに行ったことをきっかけに、祭りに参加することになり、近隣の小学校の児童たちと一緒に七夕飾りを作り商店街を飾った。祭り後も、店主たちに教えてもらった竹ひごを使って、恐竜などを作る遊びが続いた。  
など

#### （乳幼児にとっての経験（例））

- 直接的・具体的な体験の充実
  - ・発達に合った素材や大きさなどの遊具を使って存分に遊ぶ
  - ・走ったり跳んだりなど思い切り身体を動かす
  - ・砂や水などの可塑性のある素材に触れて遊ぶ
  - ・花を摘んで匂いを嗅ぐ、飼育されている小動物や虫などを間近に見る
- 在園児等との交流
- 他の保護者との関わりや、幼稚園教諭、保育士、保育教諭による幼児教育の専門性に基づく関わり・援助  
など

# 幼児期までのこどもの育ちを周知する資料等

## ◆「はじめの100か月の育ちビジョン」の普及啓発（概要）



はじめの100か月の育ちビジョン

- ▼パンフレット 
- ▼紹介動画 
- ▼リーフレット 
- ▼ポスター 

### ▼地域コーディネーター活動事例集



### ▼科学的知見に関する調査研究パンフレット等



### ▼保護者向けハンドブック



### ▼関心層向けハンドブック



はじめの100か月の育ちビジョン  
専門職の方に向けた研修ガイドブック

乳幼児に関わる全ての専門職の方へ、全てのこどもの幸せ・ウェルビーイングを目指して、「はじめの100か月の育ちビジョン」がはじまりました。

なぜ生まれたのか？ 目的は？  
どんな内容なのか？ これからの役割は？  
Q&Aで詳しくご紹介します。  
ぜひ皆さんで共有してください！

こども家庭庁  
こども家庭庁長官 萩生光一  
こども家庭政策局長 藤原 正典  
こども家庭政策課長 藤原 正典

### ▼専門職向け研修ガイドブック



### ▼専門職向け研修動画



### ▼保護者向け動画



### ▼関心層向け動画



※詳細は

はじめの100か月の育ちビジョン

検索

こども家庭庁HP : [https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo\\_sodachi](https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo_sodachi)

# 幼児教育の基本的な考え方を周知する資料等

## ◆ 幼児教育の重要性お知らせポスター

ポスター

### 幼児期に 本当に大切な学びって 何ですか？

幼児期は、「遊び」の中で周囲のヒト・モノ・コトに自ら進んで関わりながら、豊かで多様な体験を通して、様々な「学びの芽」を育てていく時期です。小学校以降の学びの基礎となる「学びの芽」。そんな「学びの芽」はどのように育まれているのでしょうか？



見てね！

幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ



幼児教育は何のため？  
(約2分)



「遊び」は「学び」って  
どういうこと？  
(約7分)



「学びの芽」を育む  
多様な遊び  
(約9分)



「学びの芽」を育む  
どろだんご遊び  
(約7分)



遊びは学び 学びは遊び  
“やってみてが学びの芽”

文部科学省

(文部科学省HP)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/mext\\_02697.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html)



## ◆ 幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ

幼児教育は何のためであるのか、幼稚園等においては、子供たちに遊びを通して、どのように資質・能力を育てているのかについて、各動画で解説しています。

動画  
コンテンツ

### 幼児教育は何のため？ (約2分)

✓ 幼児期の大切な学びが分かる動画

<https://youtu.be/MExUaZ6M3G0>



### 「遊びは学び」ってどういうこと？ (約7分)

<https://www.youtube.com/watch?v=UxAl3XWfGo>



### 「学びの芽」を育む園の工夫って？ (多様な遊び編) (約9分)

<https://youtu.be/VNjOwpuDd44>



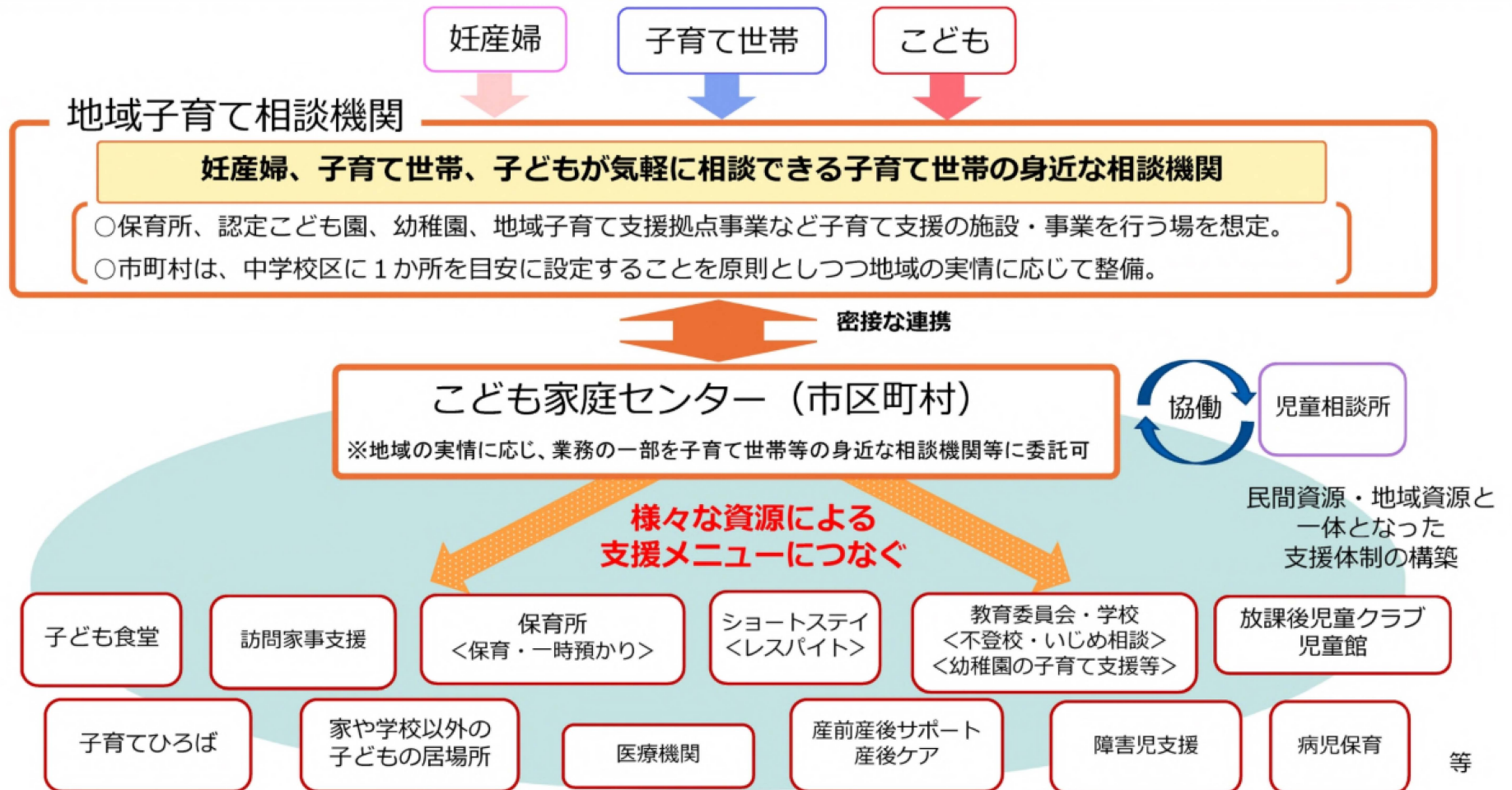
### 「学びの芽」を育む園の工夫って？ (どろだんご遊び編) (約7分)

<https://youtu.be/VuIP2CUKq-U>



## 地域子育て相談機関

- 地域子育て相談機関は、利用者にとって敷居が低く、物理的にも近距離にあり、全ての妊産婦及び子どもとその家庭からの相談に応じ、**子育て世帯に対して情報発信**や能動的な状況確認等による**子育て世帯と継続してつながる工夫**、**関係機関との連携**を行う機関。
- この整備により、**子育て世帯との接点を増やし、子どもの状況把握の機会を増やすことを目的としている**。特に、子育て世帯の中には、行政機関である子ども家庭センターに直接相談することへの抵抗感もあり得ることから、**子ども家庭センターを補完**することを想定。
- 市町村において、地理的条件、社会的条件、子育て関連施設の状況等を**総合的に勘案して定める区域ごとに整備**。



# 乳幼児理解に基づく評価の充実について



### 【乳幼児理解に基づく評価の現行の仕組み】

- 現行幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領においては、乳幼児一人一人の理解に基づいた評価を行うこととされている。また、評価を行うに当たっては、以下の点に留意されているところ。
  - ✓ 評価は、乳幼児の発達の理解と指導の改善という両面から行うものであること
  - ✓ 日々の指導と評価は一体になっているものであること
  - ✓ 評価は、指導の改善を図る手掛かりを求めるものであること
  - ✓ 他の乳幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないこと
- 幼児教育においては、評価は、乳幼児の理解に基づくものとしており、この「乳幼児を理解する」とは、一人一人の乳幼児と直接に触れあいながら、乳幼児の言動や表現から、思いや考えなどを理解しかつ受け止め、その乳幼児のよさや可能性などを理解しようとすることである。
- また、評価の妥当性や信頼性を高められるよう、
  - ✓ 乳幼児一人一人のよさや可能性などを把握するために、日々の記録やエピソード、写真など乳幼児の評価の参考となる情報を生かす
  - ✓ 複数の教職員で、日々の記録等を共有しながら多面的に幼児を捉えるなどの工夫が重要である。

### 【保育所等における評価の現状や課題】

- これまでも、保育に当たっては、乳幼児の実態に即して計画を作成・実践し、その計画と実践を振り返って評価し、結果を次の計画に反映させていくことが、保育の質を高める上で重要とされてきた。一方で、こうした乳幼児理解に基づく一連の過程に沿った保育実践は、園によってばらつきがある。
- また、日常的な書類作成業務が負担となっているとの指摘がある中で、作成に時間や労力を要する書類を単に削減することのみを目的とした場合、保育実践の記録として不十分になったり、計画が形骸化したりするなど、保育の質の低下につながる恐れがあることにも留意が必要である。

### 【幼稚園等における評価の現状や課題】

- 指導の改善に生かす評価を行うに当たり、育みたい資質・能力を育成する観点から自身の指導を振り返ることが十分に行われていないのではないかとの指摘がある。このため、評価の妥当性や信頼性を高める取組としての記録においても、記録が単なる表面的な活動の記述に留まっており、指導の改善に生かす評価の参考となる情報が不十分な記録となっているとの指摘がある。
- 幼稚園に対する調査によると、「写真付きの記録を作成したりエピソードを記録したり等、評価の参考となる情報をできるだけ充実させる」を選択した割合は56.2%であった。また、教育活動の記録方法についての回答状況を「手書き」「ICT」「手書きとICT併用」で分類したところ、43.1%の園が「手書き」であった。



## 週案 (5歳児9月第2週) (抜粋)

週の保育のねらい (○) と内容 (・)

- 友達とのつながりを楽しみながら、考えを出し合って遊びを進めていく。
- 進んで運動遊びに取り組み、繰り返し試したり挑戦したりする。
- 運動会の競技や係の仕事を楽しみにする。
  - ・自分の思いを話したり、友達の考えを聞いたりして、遊びを進める。
  - ・運動会でやってみたいことを思い浮かべながら、いろいろな運動遊びに取り組む。



## 指導計画の改善 (ねらい及び内容の修正の方向性)

- 友達と一緒に、進んで運動遊びに取り組み、繰り返し試したり挑戦したりする。
- ・エンドレスリレーをしながら、走る気持ちよさや楽しさを味わう。

## 9月〇日 (〇) の記録 (抜粋)

朝からリレーをやろうと園庭に出ていく幼児たち(ア)。ジャンケンをして勝った幼児と負けた幼児でチームに分かれる(イ)。

A児の掛け声でリレーが始まると、楽しそうな雰囲気「入れて」と幼児がやってくる(ウ)。B児は仲よしのA児がいる列に並ぶが、「やっぱりこっちにする」と、先を走っているチームの列に並ぶ(エ)、幼児たちは一周して次の走者にバトンを渡すと、すぐに列の後に並ぶことを繰り返す(オ)。バトンを受け取ると勢いよく走り出し、自分の前を走る友達に追い付いたり、追い越したりすることで「速く走れた」と感じている(カ)。そのうち、「どっちが勝っているの?」という言葉が聞かれ、友達と競い合って走ることが楽しくなってきたようだ(キ)。順番を待ちながら「今度は〇〇ちゃんと走れる」と喜び(ク)、「負けないぞ!」と腕を大きく振ってみせる(ク)、アンカーたすきは「やってみたい」という思いで走り終わった幼児が近くにいた友達に渡している(コ)。誰がアンカーで走っているのか分からなくなってしまっても、片付けまでエンドレスでリレーが続いた(サ)。

以下のような学びの姿を捉え、右記3点の方向性で指導計画の改善を図る。  
週の保育のねらいのうち、2つ目のねらいを修正し、ねらいに向かうに当たり、内容も修正する。

- ・友達を感じながら一緒に走る楽しさを味わってほしい。
- ・人数調整やチーム分けよりもエンドレスリレーを楽しんでいこう。
- ・人数やチーム分けのことに気付き始める幼児が出てくると思うので、しばらく見守っていこう。

## <記録した幼児の姿から「学び」を見取る>

### 学びが芽生えつつある具体的な姿から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用し、遊びの中の「学び」を見取る

【健康な心と体】、【自立心】、【協同性】、【道徳性・規範意識の芽生え】、【社会生活との関わり】、【思考力の芽生え】、【自然との関わり・生命尊重】、【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】、【言葉による伝え合い】、【豊かな感性と表現】

- ・自分でやりたいことを見付け、自ら取り組んでいる(ア) 【健】【自】
- ・ジャンケンの勝敗によって、2つのチームに分けられることに気付いている(イ) 【道】【数】
- ・楽しそうな雰囲気に心が動き、自ら遊びに加わっている(ウ) 【健】【自】
- ・リレーの様子を目で追って、先を走っているチームが速いと捉え、勝ちそうだと思っている(エ) 【思】【数】
- ・リレーのルールが大まかに分かっている(イ)(オ) 【自】【道】
- ・追い付く、追い越すことで速くなったと捉えている(カ) 【健】【思】【数】
- ・追い付いたり追い越したりして、友達と競争することが楽しく、走ることに自信がきている(キ) 【健】【自】
- ・どちらが速いのかについて、どうしたら分かるのか知ろうとしている(ク) 【思】【数】
- ・走っている友達を目で追ったり、自分の前に並んでいる友達が何人いるか数えたりしながら、誰と走るか見当を付けている(ク) 【思】【数】
- ・速く走るには腕を大きく振るとよいと分かっている(ク) 【健】
- ・目新しさもあり、アンカーたすきに興味をもって、使ってみたいと思っている(コ) 【健】【思】
- ・スピードを感じたり、一緒に走っている友達との比較によって、速く走れるようになっていくことを実感したりして、走ることが楽しく、もっと速く走りたいと意欲的になっている(サ) 【健】【自】【思】

### 資質・能力が育まれていることを確認する

#### 【知識及び技能の基礎】

- ・ジャンケンの勝敗によって、二つのチームに分けられることに気付いている。
- ・リレーのルールが大まかに分かっている。

#### 【思考力、判断力、表現力等の基礎】

- ・先を走っているチームが速いと捉え、勝ちそうだと思っている。
- ・誰と走るか、数を数えるなどしながら見当を付けている。
- ・速く走るには腕を大きく振るとよいと自分なりに考えている。引き離したり追い付いたりする様子から、距離を捉えて、速さを判断している。

#### 【学びに向かう力、人間性等】

- ・自分でやりたいことを見付け、自ら進んで取り組んでいる。友達と競争することが楽しく、走ることに自信がきている。
- ・走ることが楽しく、もっと早く走りたいと意欲的になっている。

# 記録と振り返りの充実のイメージ（例）

保護者に配布するドキュメンテーションを作成する際に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」又は育みたい資質・能力の観点から自身の指導を振り返り、担任等や管理職とが話し合いながら、多面的に幼児を捉えていくイメージ例。

今週のねらい：友達とイメージを共有しながら遊ぶことを楽しむ

学びを見取る視点

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

or

資質・能力



数量や図形、  
標識や文字など  
への関心・感覚



社会生活  
との関わり

学びに向かう力、  
人間性等

知・技の  
基礎

A君は電車が好きで、新幹線を製作中。車両同士を連結させるためのいい大きさと長さのある箱を選ぶのも、こだわりポイント！

B君も電車が好きで、図鑑やタブレットで調べていました。A君の新幹線を見て、同じように自分も作り、2人で連結して嬉しそう！

思・判・表  
の基礎



思考力の  
芽生え

協同性



学びに向かう力、  
人間性等

知・技の  
基礎

車両の連結部分は、磁石を付けて本当にくっいたり離れたりできるように工夫していました。

別の種別の新幹線も一緒に作るようになったようです。「こっちに押さえておから、テープよろしくね」「そうそう、いいね！」などと声をかけていました。

思・判・表  
の基礎



協同性

学びに向かう力、  
人間性等

ついに完成！2人で抱き合って喜んでいました。「かっこいいじゃん！」と周りの友達からも誉め言葉を掛けられ、嬉しそう！友達に認められることでさらに自信が付きますね！

「今度は、モノレールを作ろう！」「僕もやりたい！」「この箱がいいんじゃない？」と周りの友達も刺激を受けて仲間入り。友達の輪が広がっていきます。

学びに向かう力、  
人間性等

豊かな  
感性と表現



今週は、「友達とイメージを共有しながら遊ぶことを楽しむ」ことをねらいとしています。美容院ごっこや新幹線作りなどの遊びが見られました。



新幹線作りは、もともとはA君が、大好きな新幹線を、色や形にこだわってそれらしく作ろうと試行錯誤していたことから始まったのですが、ねらいとの関連が読み取れるのではないかとと思うので、その点から振り返ってまとめてみようと思います。

A君は本当に電車が好きですね。これまで様々なものを自分なりに作ってきた経験を生かして、イメージしている新幹線と、目の前にある空き箱などを比較して、よりふさわしい材料を選んでいるのですね。手で持って走らせて遊ぶのにもちょうど良さそうな大きさの箱を選んでますね。A君は1人で作っていたのですか？



B君も電車が好きで、これまでもよく図鑑やタブレットで調べていました。この時は、A君が新幹線を作っているのを見て、「自分も作りたい！」と作り始め、2人で連結させて嬉しそうでした。



車両を連結させるのに、磁石を使ったのですね。よく気が付きましたね。A君が磁石を使うことを思い付いたのですか？



はい。保護者の方と一緒に幼稚園で行った夏祭りの時に、魚釣りコーナーで磁石を使っていたことから思い付いたようでした。磁石の特徴や仕組みに気付いていたので、連結する様子を表現するのに生かされたのではないかと思います。



A君は、B君が自分と同じように作り始めたことを受け入れ、さらに連結させて楽しんでいることから、友達とイメージを共有しながら遊ぶと、より楽しくなると分かってきているのではないかと思います。それから、別の種別の新幹線を友達と協力し合って作り、完成したら抱き合って喜んでいました。こうしたところに協同性が育まれていることが見て取れます。



2人の新幹線刺激を受けて、他の幼児たちも仲間になってモノレール作りが始まりました。

A君が大好きな新幹線をそれらしく表現することにこだわり、連結を表現するなど試行錯誤しながら作っていたことで、魅力的な遊びになっています。モノレール作りもきっとそれらしく作ろうと思うので、これまでの経験を生かしながら、表現したいことが表せるよう、材料を考えて準備しておこうと思います。

